

わだち

# 一般財団法人 宮城県剣道連盟

## 広報誌 第27号

(2026.4.1)

〒982-0845

宮城県仙台市太白区門前町2-1

電話 022(746)8461 FAX 022(746)8462

<https://www.miyagi-kendo.com>

第20回 宮城県少年剣道講習会  
令和7年12月14日(日) 会場 名取市民体育館



## 目次

### ご挨拶

宮城県剣道連盟会長ご挨拶…………… P 2

宮城県剣道連盟理事長ご挨拶…………… P 2

### 特集 地域展開

「本校の地域展開の現状」について

大崎市立古川中学校…………… P 3

剣道を地域で育てる—岩沼市・岩沼西中学校における部活動地域移行(展開)

岩沼市立岩沼西中学校…………… P 4

中学校部活動の地域展開について

仙台市立南小泉中学校…………… P 5

武道等支援事業専門委員会より…………… P 5

第20回宮城県少年剣道講習会…………… P 6

高体連／小牛田農林高等学校…………… P10

中体連／仙台市立広瀬中学校…………… P12

中体連／聖ドミニコ学院中学校…………… P14

居合道部会…………… P16

杖道部会…………… P18

こちらのQRコードを読み取ると  
宮城県剣道連盟ホームページが  
ご覧になれます。



# 挨拶



一般財団法人 宮城県剣道連盟  
会長

井上 雅勝

日ごろより、本連盟の活動にご理解、ご支援を賜り衷心より厚く御礼申し上げます。

令和七年度は、会員皆様のご協力の基、事業などがほぼ計画通りに運営できました。県内外の稽古会・大会・講習会や審査会などは、以前にも増して多くの皆様に参加していただき目覚ましい成果を収めております。日々の積極的な取り組みに感謝いたします。具体的には八月に大崎市で開催された東北総合スポーツ大会で成年男子が優勝、さらに青葉体育館で実施した六・七段審査会には、全国より一四〇〇名近い受審者が集まり、本県より多数の合格者が誕生しています。引き続き本年度も審査会が実施されますので、奮って参加されますようご案内いたします。他にも中体連・高体連・居合道・杖道を含めた各領域にて多くの好結果を残すことができました。改めてご活躍にお祝いを申し上げます。

さて、ここである企業の「コーポレート」の一部を紹介いたします。「心の豊かさって、なんだ？」 ありったけの笑顔で、人と話してみた。ひとつのものを、人と分け合ってみた。ささいな感謝を、人に伝えてみた。そのたびに、胸の奥が少しあたたかくなった。これが、心の豊かさというやつなのだろうか……。心の豊

かさをもちと。「いかがでしょう。観たり聴いたりしたことはありませんか。あの鬼がでてくるものです。このフレーズを剣道界に置き換えればどのようなものでしょうか。単に、剣道の実力を高めたり、数多く打ち込んだり、試合に勝つことだけを目標にしてよいのか考えさせられる内容です。やはり剣道を通して、『心の豊かさ』を、これまで以上に追求し日常生活にまで活かしていければと思います。そこで新年度、本連盟は量的な成果を追求することは勿論、これまでの慣習にとらわれることなく、質的な豊かさを求める年にしたいと思えます。社会情勢などを見極め、多様化するニーズに応えるべく各自の目的に応じた修練に専念できるように努めてまいります。そして、二つ一つの活動を丁寧に行い、『剣の理法』に則った質的にも高い活動を実践しながら『心の豊かさ』をも求め、多くの人々に剣道の素晴らしさを理解していただきたいと考えております。ご協力の程、よろしくお願い致します。

結びに、会員皆様が、ますます剣道にご精進し飛躍されることも心に豊かな年になることをご祈念申し上げ、甚だ簡単ですが、ご挨拶に代えさせていただきます。



一般財団法人 宮城県剣道連盟  
副会長兼理事長

高橋 昭博

令和七年度は、当初計画の行事がほぼ予定通り実施できました。会員の皆様の剣道に対する積極的な姿勢と独自の取り組みにより、充実した一年であつたと感じております。心から感謝を申し上げます。

中でも、八月に仙台で行われた中央審査会では、本県の合格者が六段二十八名、七段十四名と多くの方々が合格、合格率も六段46・6%、七段33・3%と他県に比べて大変高いものとなりました。日ごろの鍛錬とそれぞれの稽古会の充実ぶりが伺えます。また、大会や講習会にも多くの参加をいただきました。各会員の求道心の表れと思っております。

また、東北総合スポーツ大会では、成年男子が久しぶりの優勝、総合でも二位と好成績を残しました。選手各位の気迫あふれる戦いぶりや事前の稽古の賜物であり感謝と敬意を申し上げます。

一方で、剣道人口減少という大きな課題があり、各地域においても厳しい状況が続いております。しかし各団体でそれぞれ

独自の取り組みが行われ、少年剣道や大人の数を増やしているところも複数出てきました。剣道を次世代に伝承するという情熱が感じられるとともに、剣道をやりたいと思う子供たちや保護者がまだまだいるということが大変心強く思っております。

中学校では、部活動の地域展開が現実味を帯びてまいりました。これは剣道の大きな転換期でもあります。学校任せではなく、地域が行政や学校と連携し剣道をやりたい人皆ができる環境を作り上げていく。そこには子供たちからシニアまで多くの人が集い、世代を問わず良質な人間関係を育み、剣道を通して子供たちの成長を見守っていき、日本伝剣道を正しく継承し、心豊かに生きてゆくこの文化を大切にしてまいりたいと思えます。

令和八年度も、この志をもつて宮城県剣道連盟の運営を進めてまいれる所存です。剣道を愛する皆様と一丸となって宮城の剣道を発展させていきたいと考えています。ご支援とご協力をお願い申し上げます。

# 特集 地域展開



## 「本校の地域展開の現状」について

大崎市立古川中学校 佐藤 裕之

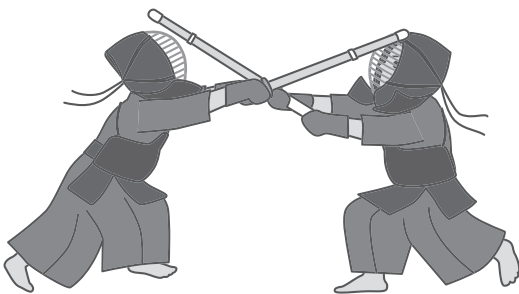
本校剣道部は、今年度部員十一名で活動しています。そのうち小学校からの剣道経験者は五名であり、毎年経験者が入部してくる土壌があります。活動場所も本校に武道館があり、環境としては整っています。

本校剣道部の外部指導者の井坂亮先生は、古城剣道クラブの指導者です。入部してくる経験者の多くは古城剣道クラブの出身者です。また、活動場所も本校に隣接する古川第一小学校を使用することが多く、以前から休日の部活動は古城剣道クラブと共に活動することがありました。現在は、正式に地域クラブとして大崎市から認定を受け、令和六・七年度の二年間、地域移行モデル事業として活動をしています。

具体的には、部活動に充てていた休日の月二回を古城剣道クラブとして活動しています。本校剣道部員は、全員古城剣道クラブに登録していますので、そこで活動しています。生徒にとっては、以前までの活動状況と大きく変わらず、指導者も同

じということ、安心感を持って活動できていると思います。

大崎市では、令和八年度から土日・祝日の部活動は原則実施しなくなり、生徒が休日のクラブ活動で部活動と同じ競技を選択するのであれば、競技力向上のために、休日の地域クラブ指導と平日の部活動指導の一貫性が重要になってくると思います。互いに連携を図り、生徒の心身の健全な育成に注力していきたいと思っています。



# 剣道を地域で育てる

## ―岩沼市立岩沼西中学校における部活動地域移行(展開)―

岩沼市立岩沼西中学校 剣道部 顧問 玉手 裕生

少子化や教職員の働き方改革を背景に、部活動の在り方が全国的に転換期を迎えています。岩沼市では、少子化の進行により部活動の維持が困難になることや、教職員の働き方改革の必要性を大きな課題とし、種目数や活動内容を限定せざるを得ない状況の中で、子どもたちの活動機会を将来にわたり確保するため、「持続可能な活動の実現」を目的として、部活動を地域クラブ活動へと展開しています。その根底には、生徒が自分の時間や休日の過ごし方を主体的に選択できる環境づくりと、教職員のワークライフバランスを整えるという考えがあります。

二種目を上限として学校部活動に指導者を派遣する【派遣型】です。岩沼西中学校剣道部では【派遣型】を活用し、地域クラブ「岩沼西少年剣道錬成会」代表の長谷武典先生に指導をお願いしています。地域クラブと学校部活動の両方を指導していただくことで、育成方針に一貫性が生まれ、生徒は安定した環境で剣道に取り組むことができます。

生徒の多くは、地域クラブである岩沼西少年剣道錬成会にも所属し、地域移行となった土曜日・日曜日に稽古を行っています。さらに、平日の部活動の回数が減少してからは、岩沼市剣道連盟主催の一般稽古会(火曜日)に参加することにより、幅広い年代の剣士と稽古を重ねる貴重な機会となっています。

休日の部活動について、岩沼市では令和五年度から競技ごとに地域移行を進め、令



岩沼市立岩沼西中学校 横澤 樹季

私は、八月二十三日から二十五日にかけて宮崎県で行われた第五十五回全国中学校剣道大会に出場しました。結果は二回戦敗退と悔いの残るものですが、とても貴重な経験をすることができました。

たとえ短い時間であっても、常に試合を意識しながら稽古に打ち込むことで、技術面だけでなく精神面も向上させることができそうです。そのような稽古を積み重ねてきたからこそ全国大会に出場することができ、レベルの高い足さばきや打突など、多くのことを学ぶことができました。来年度は、これまでの結果にとらわれないこと、大舞台で活躍できる選手になれるよう努力していきます。これまで応援してくださったすべての方々に、心より感謝いたします。

私が住んでいる岩沼市では、部活動のガイドラインにより、活動は平日三日までと決められています。部活動だけでは不足する分を、私が所属している道場や、市の剣道連盟が行っている毎週火曜日一般稽古などで補いながら、日々の稽古に励んでいます。

和七年度に完全実施となりました。剣道においては令和七年度から「休日スポーツ教室」として本格的に運用を開始しました。現在、毎週土曜日に岩沼市内中学校の体育館を会場に、岩沼市剣道連盟の先生方の指導体制のもと、登録した市内中学生が熱心に稽古に励んでいます。

また、練習試合や大会参加については、剣道部保護者会の「岩沼西SC(サポートクラブ)」が運営を担っています。保護者の理解と協力により、学校・地域・家庭が一体となった支援体制が築かれています。

岩沼西中学校剣道部顧問として、今後も岩沼市剣道連盟をはじめとする関係団体や剣道部保護者と連携をしながら、剣道の教育的価値を大切にしたい地域移行のモデルづくりを進めていきたいと考えています。

# 中学校部活動の地域展開について

仙台市立南小泉中学校 今野 透

宮城県では、国の方針を受け令和八年度から令和十年度までの三年間で、県内すべての公立中学校において、休日の部活動を行わないことを目標としています。また、平日の部活動も地域の実情、休日の移行の状況を踏まえて取組を進めていくとしています。

地域クラブは、前年度内に県中体連へ必要な登録申請の手続きを行い、要件を満たしていれば、各地区の中総体に参加することが出来ます。他県では、条件を満たし地域クラブから全国大会や東北大会へ出場してくるチームや選手がいます。

## 特集 地域展開

部活動の地域移行は、地域クラブ活動の在り方をより的確に表すため、「地域展開」と名称を変更しています。部活動の地域展開により、適切な指導者による良質で一貫的な指導、中学三年生での引退といった学校段階にとられない継続的な活動を行うことなど新たな価値を創出することが出来ます。

幼少から剣道を続けている生徒はもちろんのこと、中学校の部活動により剣道に出会う生徒に対し、将来にわたって継続的に剣道に親しむ機会を確保・充実することが重要であり、地域の実情を踏まえ、地域展開に対する検討事項をしっかりと整理し、学校単位で行われてきた部活動を、地域全体で支え、より豊かで幅広い活動を保障していくことが必要であると言えます。



# 武道等支援事業専門委員会より

委員長 菅井 吉秀

昭和の終わり頃まで、学校体育の指導はとても厳格であったように記憶している。そのことが総て良かったとは言わないが、平成から令和にかけての体育の授業は個を尊重するあまり、節度や礼儀の面で疑問が残る。こういった時に、当委員会では希望校にその地域から適切な授業協力者を派遣し、剣道授業の支援活動を実践してきた。我々コーディネーターは敬意を表しながら授業参観を度々行ってきたが、派遣された先生方の指導はいずれの場合でも実に整然としており、指導の一言一句に重みがあった。しかもそれらの言葉には心がこもっていて、何よりもあたたかな響きがあり、只々頭が下がる思いで参観していた。参観後、若い体育教師ほとんどからは、異口同音に「参考になった。勉強になった。」の声があり、どんな点が参考になり、勉強になったのかを詳しく質問してみると、やはり決まって他のスポーツ種目にはない、武道・剣道 が持つ、正座、左座右起、座礼、立礼目付等々、立居振る舞い全体から漂ってくる得も言われぬ節度ある美しい姿等々、その場の雰囲気をとらえて感想を述べる若い教師が多数いた。実は、このことが文科省で目指している武道教育の

大きな視点の一つである。面の着装では日本手ぬぐいが必要とするが今の一般家庭にそれは見られなく、畳や床で正座する経験もない、と聞く。若い教師に至っては、剣道がまるで別世界に映っているのかも知れない。剣道の授業は固苦しさだけで続かないことは一目瞭然である。派遣されている授業協力者の先生方には、教育現場における守秘義務やいろいろなことに気遣いながら指導に当たっていただいていることに心から敬意を表する次第である。

野球では「侍ジャパン」、サッカーでは「侍ブルー」と言って世界で活躍しているが、その姿勢には武士道と言われる精神が込められているのではと、想像できる。我々剣道人は普段、何の意識をすることもなく稽古に取り組んでいるが、もう一度、武道・剣道の意義を夫々で再確認することがあってもよいのではないかと考える。更に我々剣道人こそが武道・剣道に取り組んでいることを大いに誇りに思うべきとも……。

中学校の授業では、剣道の持つ特性について、今後尚一層、丁寧な心を込めて指導し、広めていくよう、最善の努力を心掛けて参る所存である。






# 第20回 宮城県少年剣道講習会



日時：令和7年12月14日(日) 場所：名取市民体育館

宮城県内の小学五、六年生を対象とした第二十回宮城県少年剣道講習会は令和七年十二月十四日(日)名取市民体育館にて開催され、県内各地の少年剣道四十九団体二百八名もの剣士が参加しました。今年度の講師は平成三十年に続き二回目の来仙となる竹ノ内佑也先生です。竹ノ内先生は第六十二回全日本剣道選手権で初出場しかも史上最年少で優勝、更に昨年の第七十二回大会でも優勝されました。竹ノ内先生からは「剣道は好きだが稽古はきつい。そのきつい稽古をどうやって楽しんでやるかが大事。」とお言葉を頂きました。開会の挨拶では宮城県剣道連盟会長井上雅勝先生より「七年前にも少年剣道講習会にて指導を頂いた。竹ノ内先生は素晴らしい経歴をもち、日本を代表する素晴らしい剣士です。今日の講習会で色々なことを学び自分の剣道に活かしてください。」とお話がありました。閉会の挨拶では同連盟の副会長の佐藤悦郎先生より「本日は大変有意義で素晴らしい講習会となりました。技術的なことだけでなく剣道とどう向かい合うかを学んだ。皆さんにとって大変貴重な経験になったと思う。本日の経験を大切に、すぐにできなくても構わないので二つ三つ実践していつてほしい。竹ノ内先生の益々の活躍を期待致します。」とお言葉をいただきました。



- 一 開会式
- (一) 開会挨拶  
宮城県剣道連盟 井上 雅勝 会長
- (二) 講師紹介  
幼少年普及委員会 千葉 弘勝 委員長  
六郷スポーツ少年団 千葉 克己さん
- (三) 受講生代表「歓迎の言葉」  
竹ノ内先生 今日、宮城県にお越しいただきありがとうございます。竹ノ内先生にお会いできるのを楽しみにしていました。今までの活躍はユーチューブでよく拝見しています。小手、面などの技の種類が多彩でもとでも勉強になります。今年の全国選手権大会はテレビで観戦しました。三回戦の一本とられてから攻めつづけた後の逆胴がすごかったです。ぼくたちは、今回の稽古会で学ぶことがたくさんあると思います。ぼくたちも元気よく声をだしていくので本日はご指導よろしくお願ひいたします。

		練習内容	○練習上の注意事項
準備運動		<p><b>(1)準備運動</b></p> <p>○しっかり声を出してがんばりましょう!!</p> <p>岩沼少年剣道錬成会 佐藤 皇さん 号令</p> <p>*佐藤さんは竹ノ内先生の「号令をかけたい人!」に自ら志願しました。</p>	
素振り		<p><b>(2)素振り</b></p> <p>①前進面(先生から止めがかかるまで)前に出ながら面を打ち、一歩さがる</p> <p>②前進後退素振り <b>(30本)</b></p> <p>③前進面 <b>(20本)</b></p> <p>○下がる時爪先を上げないように</p> <p>④前進面面 <b>(20本)</b></p> <p>○苦しくなったらもっともっと大きな声を出す</p> <p>⑤股割素振りその1 <b>(30本)</b></p> <p>○竹刀は床と並行になるように。振り下ろしてから体を起こす。反動で上げない。</p> <p>⑥股割素振りその2 <b>(40本)</b></p> <p>○最初の20本は前と一緒に。次の20本は立ち上がりそのまま20本。</p> <p>⑦二人組寸止め面打ち(相手の方へ全力で肩まで振り下ろす)</p> <p>○竹刀の風を切る音が聞こえるか?</p> <p>⑧跳躍素振り</p> <p>*5分間休憩 面を持って集合</p> <p>⑨跳躍素振り <b>(100本)</b></p>	
素振り		 	
切り返し		<p><b>(3)切り返し</b></p> <p>⑩切り返し<b>(30本、50本、100本)</b> その場で</p> <p>⑪相手とじゃんけんして、勝ったら切り返し<b>(100本)</b>、負けたら<b>(50本)</b></p> <p>(勝った方が稽古できるぞ!!)</p>	
基本打ち		<p><b>(4)基本打ち</b></p> <p>⑫面打ち 大きく<b>(2本)</b>、小さく<b>(2本)</b>(2本目は笛がなってから)</p> <p>○この面を1本にするんだー!!の声で</p> <p>⑬小さく面 <b>(3本)</b></p> <p>○1本、1本を全力で</p> <p>⑭小手打ち <b>(2本)</b> 笛の合図で</p> <p>○全力の声</p> <p>⑮相面 笛の合図で</p> <p>○声を出し合う</p> <p>⑯面の追い込み <b>(4回)</b></p> <p>⑰切り返し</p> <p>⑱小さく面<b>(2本)</b>小手<b>(1本)</b>小手面<b>(1本)</b></p> <p>⑲小さく面<b>(1本)</b>小手<b>(1本)</b>小手面<b>(1本)</b></p> <p>⑳小さく面<b>(1本)</b>小手<b>(1本)</b>小手胴<b>(1本)</b></p>	
基本打ち			

	練習内容	○練習上の注意事項
応じ技	<p>(5) 応じ技</p> <p>① 出頭面 元立ち1歩入って面 掛り手はその出頭を打つ</p> <p>② 抜き胴 元立ち1歩入って面 掛り手はその出頭を打つ。 振り返って元立ちはそのま面、掛り手は抜き胴。</p>	
相面	<p>(6) 相面</p> <p>○どうやったら当たるか考えながらやる。</p> <p>一足一刀からお互いに後ろを向き笛の合図で振り向き相面</p> <p>一足一刀からお互いに後ろを向き笛の合図で振り向き相面 負けた方、相打ちになったら双方が早素振り(10本)</p> <p>一足一刀からお互いに後ろを向き笛の合図で振り向き相面 負けた方、相打ちになったら双方が腕立て伏せ(10回)</p> <p>*10分間休憩</p>	
指導稽古	<p>(7) 指導稽古</p> <p>面を早く正しく着けて前に並んだ20名が竹ノ内先生と稽古(手拭い帽子型はだめ)</p>	

## 三 閉会式

## (一) 講師講評(竹ノ内 佑也先生)

今日は短い時間でしたが皆さんと一緒に稽古が出来てとても良かったです。今日やったことを是非自分の稽古に活かしてほしいと思います。

今日ここで皆さんと稽古できたのも、皆さんの家族や先生方のおかげです。感謝をして今後も稽古していきます。剣道はきついこともあるけれど楽しいこともたくさんあります。きついと思ったら声をもっと出して、これからも楽しく剣道を頑張ってください。

\*この後、最初の号令や先生の技の相手をしてくれた岩沼少年剣道錬成会の佐藤皇さんに竹ノ内先生から全日本剣道選手権でも使ったという手拭いお褒めの言葉とともにおくられました。

## (二) 受講生代表「お礼の言葉」

## 弘武館千葉道場

佐藤 和花さん

本日はお忙しい中そして雪の中、宮城県の小学生のためにお越しいただきありがとうございます。竹ノ内先生はとてもわかりやすい指導内容で午前の部では特に素振りが印象に残りました。素振りはどこでもできることなので、本日学んだ事を意識して、一本一本大切にやっていきたいと思います。本日教わった事をそれぞれが道場に持ち帰り、今後の稽古

に活かしていきたいと思っています。ありがとうございました！私達のあこがれである竹ノ内先生の今後のご活躍を楽しみにしています。頑張ってください！

## (三) 閉会の挨拶

## 宮城県剣道連盟

佐藤 悦郎 副会長





◎ 少年少女剣士より

Q どうしたら速く面を打てますか？

A まず、速くうたいと思うこと。今でももっと速く打てるか考えて普段の稽古のときに本気でやって体におぼえこませる。

Q 試合するときの足と体のつかいかた。

A 稽古のときにどうやって自分がすぐ反応できるか考えて稽古する。

Q 相面を決めるコツは？

A 相面というよりは相手の出頭、出ばな面、相手より速く打つことをどうやったら出来るか考えて稽古する。

Q 先生は昔どういう稽古をしていましたか？

A 前の大会で優勝の時は、早く食べて眠りたかったので奥さんにパスタをお願いした。今回はやっぱりパスタを食べた負け。食べ物関係ない。

Q この後の仙台での予定は？

A すぐ帰ります。宮城県は先輩もいて何回も来ているのでいろんなところに行った。

Q 落ち込んだり、ダメだなと思った時どうしますか？

A きつい練習、辛い練習のときほど楽しくなるように考える。

Q ルーティーンはなんですか？

A 剣道をやること。

◎ 広報委員より

Q 今の「座右の銘」はなんですか？以前は「自己流」でしたが…。

A 今の「座右の銘」は「覚悟」です。自分についても相手に対しても覚悟をもってあたるなどいろいろな意味をこめています。

Q 普段されている竹刀を使わないでのトレーニング方法は何でしょう？

A あまりトレーニングは好きではありませんが、時々走ったりしています。筋トレよりは食トレの方が…(笑)

Q 日々のストレス解消法は何かありますか？(体のケア含め)

A 休みの日に子供と遊ぶこと。家族でショッピングや公園などへ出かけること。

Q 試合前のルーティーンは何かありますか？

A 試合の前日などは特にない。試合直前は、軽く数回ジャンプしている。

Q 剣道時代に剣道が趣味と書かれていますが、趣味としての剣道の楽しみ方を教えてください。

A 剣道を仕事としているが、楽しんでやっていきたい。娘も剣道をはじめたので、娘とも楽しみながら剣道をやっている。

たけのうち ゆうや  
竹ノ内 佑也先生に

質問コーナー  
Question and Answer

◎ 宮城県の少年剣士へのメッセージをお願いします。

A 剣道を楽しむことを大事にしてほしい。交剣知愛という言葉があるが、他の道場の子供達と仲良くなり友達を増やし、更に自分の力が高められるよう鍛えて強くなってほしい。剣道ができることに感謝しながら、両親や誰かの為に剣道を活かせるように頑張してほしい。

◎ 少年少女剣士の感想

- 私は剣道をはじめたばかりですが、みんなで稽古する楽しさを学びました。(5年/女子)
- 竹ノ内先生と稽古が出来てとても感激でした。(5年/男子)
- 稽古はきつかったけど楽しかった。(6年/男子)
- 来年はもっと速く面をつけて、先生と稽古がしたい。(5年/男子)
- 途中で防具の紐がとれてみんな稽古を止めないようしっかり準備することを学びました。(5年/男子)



たけのうち ゆうや  
竹ノ内 佑也先生

六段 平成5年6月2日生  
宮崎市立高岡中学校  
福岡大学附属大濠高等学校  
筑波大学

〈剣道歴〉

- 全日本選抜少年剣道個人錬成大会 準優勝(小6)
- 2008年全国道場少年剣道大会中学生男子の部 優勝
- 2010・2011年玉竜旗剣道大会 2連覇(両年大将)
- 2011年全国高等学校総合体育大会 剣道の部 団体優勝(大将)
- 全日本学生剣道優勝大会 優勝
- 第62回、第72回全日本剣道選手権大会 優勝
- 第16回、第17回、第19回世界剣道選手権大会 団体優勝
- 全国警察大会 優勝、個人優勝

高体連

All Japan High School Athletic Federation

## 「駆け抜けてきた3年間」



小牛田農林高等学校 佐々木 律紀 選手

私がこれまで剣道を続けてきた中で、最も大きな転機となったのは中学生の時でした。思うような結果が残せず、悔しい気持ちばかりが積み重なり、本気で剣道をやめようと考えた時期でもありました。しかし、心のどこかでまだ剣道が好きな自分がいて、もう一度全国を目指したいという思いが強くなり、小牛田農林高校で剣道を続けることを決意しました。

入学当初は全国を舞台に戦う先輩方、そして中学生のころに全国大会や東北大会に出場した同級生に圧倒され、みんなに食らいついていくのに必死で、心が折れそうになりました。そんな時に、顧問の先生方から「成果を得るには、自分から事を起こさなければだめだ」というご指導をいただきました。その言葉は、私の心を大きく揺さぶり、受け身の姿勢ではなく、自ら成長をつかみに行く姿勢へと変わるきっかけになりました。それからは自分で課題を見つけて、実践と修正を繰り返し、先生方のご指導を吸収してさらに技術の精度を高めていきました。その積み重ねが全国大会に出場することができた最大の要因だと思います。

高校三年間を振り返ると、苦しさも涙もうれしさもすべて大切な経験でした。剣道を通じて、技術だけでなく、仲間を思う気持ち、自分を律する力、そして困難から逃げずに向き合う強さを学ぶことができました。勝敗以上に、人としての土台を鍛えることができ、充実した三年間を送ることができました。

高校での戦いは区切りを迎えますが、私の挑戦は終わりません。大学でも日本一を目指し、さらに稽古に励みたいと思います。そして、結果にだけこだわることではなく、人間力も磨いていき、強さとまっすぐさを兼ね備えた剣士になれるよう、これからも自分に挑戦していきたいです。

最後に、これまで支えてくださった多くの先生方、先輩方、仲間、そして保護者の方々、三年間、ありがとうございました。



## 「高校剣道を振り返って」



小牛田農林高等学校 東海林 愛来 選手

私は、全国で活躍する選手になりたいと思い、小牛田農林高校剣道部に入学しました。

一年生の県総体は、主務として選手をサポートしながら、一番近くで先輩方の勇姿を見ました。初めての全国大会では、各県の強豪校の試合を見て、ただただ圧倒されました。それと同時に、私も選手としてあの場所で戦いたいと思いました。

それからは、技術を磨くために部活動以外の時間でも自主練習や素振りを行いました。練習試合で得た反省は、剣道ノートにまとめ毎日自己分析を行いました。しかし、うまくいかない事も多く、何度も挫折しそうになりました。

二年生の夏、三年生から私たちの代になると、私がキャプテンを務めることになりました。私は自分が務まるのか、先輩方のように指示できるのかとても不安でした。しかし、顧問の先生に「自分たちにしか出せないチームの色を出していこう」と声を掛けていただきました。そして、五人の同級生に支えられながら、私は私らしいキャプテンを務めることができました。

三年生になってからは、一日一日がとても速く感じました。最後の県総体は、全員が笑顔で試合することができ、今までで一番楽しい大会になりました。男女団体個人で優勝できたこと、全員でまた全国の舞台上で戦えることが本当に嬉しかったです。

私は、小牛田農林剣道部で「一隅を照らす」という言葉に出会いました。この言葉には、自分が置かれた場所で精一杯努力をし、光るような生き方をすることで、周りも明るく照らし、やがて世の中を明るくすることに繋がるという意味があります。辛いことも嬉しいこともあった三年間でしたが、小牛田農林で学んだことを胸に、これからも自身が置かれた場所を照らしていこうと思います。

最後になりますが、顧問の先生方をはじめ、OB・OGの先輩方や保護者の方々、共に戦った仲間と関わってくださったすべての方々、三年間、本当にありがとうございました。





All Japan Junior High School Athletic Federation

## 「県中総体男子団体2連覇!!」 「東北中学校剣道大会個人・男子団体第5位」



### 仙台市立広瀬中学校

#### 「切磋琢磨」

私は、東北・全国大会に大将として出場しました。この大会に出場できたのは、保護者の方々、先生方、先輩方のおかげです。しかし自分に勝負がかかった場面で勝利することができずチームを上位入賞させることができなかった点は悔いが残っています。この思いを忘れず、高校に入っても仲間と切磋琢磨して頑張ります。

江面 誉志 選手

#### 「努力と感謝」

私はこの夏、東北・全国大会に出場しました。東北大会では優勝を目指し、全国大会では上位入賞を目標として努力をしてきました。結果は東北大会団体・個人ともに第5位、全国大会は予選敗退という結果でした。来年高校入学後も変わらず努力をし続け仲間、先生方、家族に感謝を忘れず、より高みを目指して頑張っていきたいです。

菅野 太星 選手

#### 「切磋琢磨」

私は3年間、全中出場という目標を達成できるよう仲間とともに、切磋琢磨してきました。時には辛い時もありましたが、みんなで声をかけ合いながら乗り越えたことで今があります。支えてくれた先生方や先輩方、いつも応援してくれた保護者に感謝し、中学校生活で学んだことを高校でより高め、これからも仲間とともに切磋琢磨していきたいです。

遠藤 充人 選手



## 「自分を信じて」

私は、全国大会で自信を持って自分から攻めることを意識して試合に臨みました。

苦しい場面でも、これまでの練習が自分の支えとなり、自分を信じて積極的に試合を行うことができました。

この経験を今後の高校生活で活かしていこうと思います。これまで応援してくれた保護者の皆さん、先生方、仲間感謝しています。

三塚 康平 選手

## 「環境を作ってくれた方々への感謝」

私は、2年生ながらも全国の舞台で戦うことができました。それは、学年が違っても練習をともに切磋琢磨できる仲間や多くの自分の時間を削って指導して下さる先生方がいてくださったおかげだと考えています。このような環境があったからこそ今の自分の剣道ができていると思います。この貴重な経験を今後の人生に繋げていきたいです。

今野 頼 選手

## 「バトンを繋いで」

広瀬中剣道部は2年連続全国出場を目標として活動してきました。私は補員として参加しました。全国へ向けての錬成会や大会に参加させて頂く中で、沢山の方のサポートの上で私達の活動は成り立っているのだと実感しました。先輩方からのバトンを受け継ぎ、来年度も日々の努力、支えて下さる皆様への感謝を忘れずに頑張りたいと思います。

芦田 幸信 選手



All Japan Junior High School Athletic Federation

「県中総体女子団体4連覇!!個人優勝 男子個人準優勝」  
「東北中学校剣道大会女子団体優勝・女子個人優勝・男子団体準優勝」



聖ドミニコ学院中学校

## 「成長」

私は、市中総体から全国大会までの間で、たくさんのお出会いと経験をしてきました。チームの仲間がたくさん助けてもらい、そのおかげで県大会を勝ち進み、東北大会まで出場することができました。個人戦でも優勝することができましたが、全国大会では3回戦で敗れてしまいました。それでも、3年間を通して、辛いことも楽しいこともたくさんありましたが、そのすべてが今の私を成長させてくれたと思います。これからも目標に向かって頑張ります。

堀江 葵咲絆 選手

## 「3年間を通して」

私は3年生で、東北大会や全国大会に出場させていただきました。一つのチームで出場できる最後の大会でしたが、仲間と全力で戦えたことは、最高の思い出になりました。3年間を通して、技術面だけでなく、精神面でも大きく成長することができました。これまでご指導くださった先生方や、支えてくださった家族に心から感謝しています。これからも感謝の気持ちを忘れずに続けていきます。応援してください。本当にありがとうございました。

佐々木 りく 選手

## 「中学校剣道を通して」

保護者の方々や先生方のご指導、そして多くの方々の応援のおかげで、今年も宮崎の地で全国の舞台に立つことができました。

目標としていた日本一には届きませんでしたが、ここまで頑張ることができたのは、支えてくださった皆様のおかげです。

私は剣道を通して「仲間を信じること」「最後まであきらめないこと」など、多くの大切なことを先生方から教わりました。

一緒に戦ってくれた部員たち、そして熱心に指導してくださった先生方に、心から感謝しています。来年は高校生として、インターハイの舞台でさらに成長した姿を見せ、恩返しできるように努力していきます。

小笠原 杏莉 選手

## 「感謝」

私は、最高の仲間と先生方と共に、東北大会や全国大会という大きな舞台に立つことができました。男女で東北大会決勝の舞台に立てたこと、もう一度全国大会に挑戦できたことは、決して当たり前のことではありません。

ここまで来ることができたのも、共に努力し、戦い抜いた仲間、御指導してくださった先生方、そして応援してくださった皆様のおかげです。

最後まで心強い応援をありがとうございました。

千葉 桃佳 選手



## 「成長」

私は2年生ながら、全国大会という大きな舞台で戦うことができました。

私たちは、全国制覇のためにどのチームよりも練習してきました。

先輩たちと戦える最後の大会。今までやってきたすべてのことを出し切り、関わってくださった全ての人に恩返しする気持ちで戦いました。この大会で、自分の成長や仲間との絆をもう一度感じることができました。

これからも大きな夢に向かって努力していきます。

高橋 和花 選手

## 「大切な経験」

私は、1年生で補欠として全中の舞台に立つという貴重な経験をすることができました。先輩方が勝利をつかみとるために、一生懸命戦っている姿を間近で見ることができました。その姿を見て、私も来年はこの舞台に立って戦いたいと思いました。

試合を通して、先輩方の強さや努力を感じ、自分もそんな先輩のようになりたいと強く感じました。1年生でこのような大きな舞台を経験できたのは、保護者の方々や周りの皆さんの支えがあったからです。

この大切な経験を生かして、これからの試合でも優勝を目指し、仲間と一緒に努力を続けていきます。

野村 咲菜 選手

## 「この一年を通して」

私は県大会、東北大会、全国大会で学べるものが多くありました。県大会と東北大会では、試合に出してもらうことができました。全国大会では、私は補欠としてチームをサポートしました。結果は予選敗退でしたが、3年生の先輩達の試合を間近で見ることができて良かったです。

来年の県大会や東北大会、全国大会では、チームのために試合に出て活躍できる選手になれるよう、これからの練習を頑張りたいと思います。

蟹澤 心陽 選手

## 「大きな舞台で」

僕は、2年生ながら全中の個人戦という大きな舞台に立つことができました。

今まで一緒に出られなかったチームメイトの分まで、少しでも多く勝ち進もうという気持ちで試合に挑みました。

結果は3回戦敗退という悔しいものになりましたが、出場できなかった仲間の思いを背負って戦えたことは、自分にとってとても大きな経験になりました。

来年こそは、絶対に団体戦の舞台に立てるよう、これからも個人としてもチームとしても全力で頑張っていきます。

遠藤 國光 選手

# 居合道部会

## 居合道特別講習会



### 令和七年度 居合道部会活動について

居合道部会は県内各地域の二十五団体が加盟しており、多くの会員が日々居合道の修練に励んでおります。今年度の主な活動について報告いたします。

#### 一、段位審査会

##### ◇第一回段位審査会

初段～五段合格者（計二十三名）

##### ◇第二回段位審査会

初段～五段合格者（計二十六名）

#### 一、全国審査会

##### ◇七段合格者（計一名）

相澤 武

##### ◇教士合格者（計三名）

関根 俊久・竹田 孝一・佐藤 恒雄

##### ◇錬士合格者（計三名）

渡邊 王志・高橋 清一・佐藤 一雄

#### 一、宮城県居合道大会

令和七年七月六日（日）

〔松島町B & G 海洋センター〕

宮剣連 大泉 貞房 副会長より御挨拶を賜り、第五十三回宮城県居合道大会を開催いたしました。猛暑の中、選手は日頃の修練の成果を発揮すべく真剣に試合に臨みました。

#### 一、居合道特別講習会

令和七年八月二日（土）・三日（日）

〔宮城県武道館〕



全日本剣道連盟 審議委員・居合道委員 居合道 範士八段 草間 純市 先生による特別講習会を開催いたしました。真夏の二日間、草間先生から氣迫溢れる熱い御指導を頂きました。「ナンバーワンを指さなくて良い。オンリーワンになることが大事。」「誰にも負けない自分を作る。」「意識を変えれば、居合が変わる。」その奥深い言葉の二つひとつが胸に刻まれました。時折、ユーモアも交えながら、受講者一人ひとりの修行段階や個性を踏まえて、わかりやすく丁寧な御指導くださいました。受講者は、草間先生の流れるような剣さばき、体さばきを一瞬たりとも見逃すまいと、熱心に受講していました。

# 道特別講習会



## 一、東北居合道大会【派遣】

令和七年九月十四日（日）

〔山形市総合スポーツセンター〕

第五十三回東北居合道大会が開催されました。七月二十一日（祝）の代表選手選考会で選ばれた、四〜七段の各段二名、計八名が、本県代表として出場しました。

監督 古川 昭夫 教士七段

◇団体戦 宮城県 総合四位

◇段別個人の入賞者

四段の部 田口 大樹（第二位）

## 一、全日本居合道大会【派遣】

令和七年十月十一日（土）

〔東京武道館〕

第六十回全日本居合道大会が開催されました。七月二十二日（祝）の代表選手選考会で選ばれた、五〜七段の三名が、本県代表として出場しました。

監督 鈴木 佐三 教士七段

助監督 村上 宜央 教士七段

◇都道府県対抗試合

七段の部 松本満知子（二回戦）

六段の部 渡邊 王志（二回戦）

五段の部 星野 和巳（一回戦）



## 一、居合道中央講習会・地区講習会

令和六年六月二十八日（土）

・二十九日（日）

〔茨城県土浦市 霞ヶ浦文化体育会館〕

第五十二回居合道中央講習会・

地区講習会（東日本）が開催されました。本県では、鈴木 正信 教士七段と竹田 孝一 教士七段を派遣し、後日伝達講習会を実施しました。

## 一、強化稽古会、特錬会、および六・七段受審者講習

本県の居合道のレベル向上および六・七段審査会の合格を目的として、計十三回実施いたしました。また、八月に特錬員を追加募集し、選手層の充実を図ってきました。各種大会や全国審査会の結果からも、本県の着実なレベル向上を実感できました。令和八年度はさらなる高みを目指し、宮剣連 井上 雅勝会長を始め、役員の皆様の御指導の基、居合道部会員一同、一層精進して参ります。

末尾ながら、居合道部会では、居合道の普及と会員拡充のため、ポスターの作製、ホームページの充

実等、情報の発信に力を入れております。次のQRコードをお読み取りいただき、当部会のホームページを御高覧いただければ幸いです。

執筆者

居合道部会広報部 石塚 裕明



# 杖道部会



## 令和七年度 杖道部会活動報告

令和七年は杖道部会にとつて重要な活動の年と成りました。

なぜならば、通年であれば五月は京都での演武大会に出場し各種の形、杖道の部に参加を致しました。で、区切るところですが、今年は五月末に第二十七回東北剣道連盟主催杖道講習会を主管県として開催いたしました。

この講習会は「全剣連杖道」の正しい普及と東北地区会員の技術向上を目的としたものでありますが、中央の講習会に参加できない者にとつて数少ない勉強の場であり現状を知る場所に成つて居ます。

開催にあたり主管剣連を代表してご挨拶を佐藤悦朗副会長先生から頂きました。

講習会では八段の先生方を始め、各県の高段の先生方を講師として開講致しました。

講習会には東北各県より五十七名程の参加があり、講習生は全剣連杖道解説書に基づく基本動作、講師による形を行い正しい姿の確認をしました。その後、段位ごとのグループに別れて研修をいたしました。両日は五月にしては気温

が高く高齢の受講者が多いので体調を崩さないか心配しましたが、体調不良を訴える講習者はなく無事終了する事が出来ました。

閉会式の修了証授与に受講生代表として最高齢者の受講生で秋田県の大原哲雄先生が受領しました。

また、ご多忙にもかかわらず佐藤悦朗副会長先生にはご出席を頂き誌面ではありますが御礼申し上げます。ご出席頂きありがとうございます。

続きまして、六月二十一日(土)～二十二日(日)当部会主催の講習会・審査会を利府町で開催しました。

六月は行事が重なる為、講習会には二十二名程の参加でありましたが、講習生には解説書に基づく基本動作、形を行い姿勢の確認を説明しました。両日は六月にしては高温が続いているので受講生が体調を崩さないか心配しましたが、体調不良に訴える講習生はなく無事終了する事が出来ました。

その後の審査会では全剣連杖道段位審査規則・細則並び

同実施要領に則した段位審査を行い同時に東北各県より委託審査も行い受審者全員が合格しました。

八月には千葉県千葉市で全剣連の中央段位審査会・中央地区講習会が開催され本県から講習会には十名参加致しました。

十月には埼玉県上尾市で第五十一回全日本杖道大会が開催され当県より三段、六段、七段の部に出場致しました。

結果は、残念ながら上位進出する事は出来ませんでした。が、来年に上位進出をお願いしたいと思っております。

八月一月には東京江戸川区で全剣連の中央段位審査会・中央地区講習会が開催され本県から講習会には十七名参加致しました。

同年三月に県武道館で当部会の講習会が開催いたしました。

末筆ではありますが、今後とも県剣連のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いをして、令和七年度の活動報告とします。

以上